

郡内の織物文化を、学び、伝える学生団体

WEAVE!

市民委員会活動報告書

WEAVE!



郡内の織物文化を、学び、伝える学生団体

郡内織物とは？

郡内地方では山あいの土地が多く、稲作に適していなかったため、古くから養蚕・絹織物業が行われていました。「甲斐絹」や「郡内織」などと呼ばれ、近代では、機械を導入して全国屈指の織物生産地となりました。しかし安価な外国の布地が輸入されるようになったり、輸出に制限がかかったりしたことで、織物業は次第に衰退してしまいます。現在は直売やブランド化など様々な取り組みを行うことで、生き残りをかけています。



WEAVE とは？

私たち都留文科大学社会科学部の学生を中心としたグループは、山梨県郡内地方の伝統産業である「郡内織物」に興味を持ち、企業の見学や織物協同組合への訪問などの調査・研究活動を行って参りました。

この魅力あふれる郡内織物をもっと多くの人に知ってほしいとの思いから、現在は研究のみでなくPR活動も行っています。都留市にとどまることなく、織物に携わる郡内の人々が一丸となって、織物文化を盛り上げていけたらと思います。

<プロジェクトメンバー>

● 第1期（2013～2017）

代表 都留文科大学社会科学部 太田 裕也 他4名

● 第2期（2017～）

代表 都留文科大学社会科学部4年 伊藤 瑠依
幹事 都留文科大学比較文化学科4年 笹井 加奈子
幹事 都留文科大学比較文化学科3年 佐々木 雪乃
幹事 都留文科大学比較文化学科3年 菊池 航平
他6名

WEAVE のあゆみ

2013年	9月	社会科学部「プロジェクト研究」により学内で「Weave」を結成
2014年	7月	大月織物協同組合を訪問、以下連携して活動を実施
	10月	谷村織物工業組合を訪問、以下連携して活動を実施
2015年	3月	大月市子供活動合同発表会に手織製品着用モデルとして参加
	5月	都留文科大学学内にて2日間「郡内織物ワークショップ・イベント」「織-ori-」を開催
2016年	3月	富士吉田せんいサミットを訪問、受付スタッフに従事
		同サミットで地元高校生の他、海外生産社や国内の他産地生産者らと意見交換 大月市子ども活動合同発表会に手織製品着用モデルとして参加
2017年	1月	都留文科大学学内にて「郡内織物手織体験会」を開催
	3月	WEAVE 第2期を結成 大月子供活動合同発表会にて織物作品を発表

なぜ活動を申請したの？

(市民活動補助金申請の目的)

かつては都留市で盛んであった郡内織物の産業。近ごろでは衰退の一途をたどってしまっています。

しかし、生糸を織るといった繊細な技術や、長いあいだ続いてきたからこそその確かな品質は、他の地域にも誇れる財産です。また、都留の人々が織物業や養蚕業と生活をともにしてきたことは、現代に生きる私たちに新鮮な働き方として映り、彼らの生きかたから学びを得ることもできます。

そんな郡内織物の産業ですが、近年では特に若者世代での需要の低迷、認知度の低下、といった問題がこれまでの研究で明らかとなりました。



そこで私たちは、イベントを中心とした様々な企画を通して、若者世代にも郡内織物の魅力を知ってほしいと考えました。また普及させるだけでなく、その過程でさまざまな人々との交流を深めることで、新しいコミュニティの輪が生まれることに期待しました。

何をしてきたの？ (活動内容)

WHAT TO DO 1

WEAVE 学内発表会 no.03

文大生に知ってもらうことは、日本全国の人に知ってもらうこと

全国各地から訪れる都留文科大学生に知ってもらうことで、郡内織物がを様々な地域で伝えてくれるメッセンジャーになってほしい。そんな思いから、大学構内で手織り体験のワークショップや郡内織物の展示を行いました。

WHAT TO DO 2

手織りファッションショープロジェクト「織物ゼミ室」

「郡内織物に興味がある」から熱意のある「サポーター」へ

すでに織物に興味がある人々に郡内織物をさらに深く知ってもらうことで、本当に応援したいという熱意のあるサポーターになってほしい。そんな思いから、毎月1回の講座と手織りで洋服を制作するプロジェクトを実行しました。少人数でゼミのようにお互いが学び合いながら進めた活動です。

WHAT TO DO 3

郡内織物を知るフリーペーパー発行

講座を聞いて終わりはもったいない。記録して多くの人に伝えたい。

織物ゼミ室での講座のお話を聞いて終わりにせず、参加していない人も郡内織物を知ることができる媒体を作りたいという思いから、フリーペーパーの発行を試みました。3月までの発行は間に合いませんでしたが、次年度も引き続き継続して校正を続けることでより良いフリーペーパーを作成します。

目的

文大生に知ってもらうことは、日本全国の人に知ってもらうこと

全国各地から訪れる都留文科大学生に知ってもらうことで、郡内織物が様々な地域で伝えてくれるメッセンジャーになってほしい。そんな思いから、大学構内で手織り体験のワークショップや郡内織物の展示を行いました。

実施要項

【日 時】 11月13日(月) 10:30～18:00

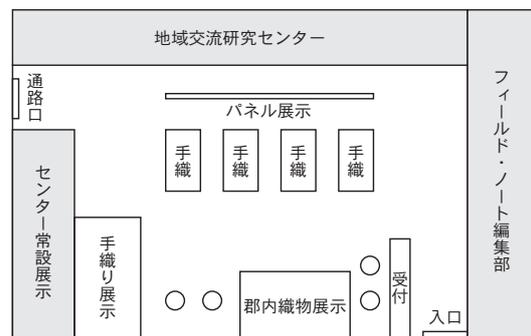
【場 所】 都留文科大学4号館
地域交流研究センター

【参加費】 無 料

【広報先】 ・都留文科大学公式ホームページ
・facebook ・twitter

【参加者】 ● 都留文科大学学生 名
● 都留文科大学職員 名

実施風景



実施内容

①手織り体験会

所要時間30分ほどで完成する手織りのコースター制作のワークショップを開催した。大月市・都留市で所有する手織り機4台を用意し、指導には大月織物研究会から清水寿子さんにお越しいただく。

②郡内織物の展示

夜具地の反物、ネクタイなど実際に販売している商品、郡内織物の説明パネルなどを展示。同時並行で展示解説なども行った。また大月短大生や大月市の機屋さんの協力を得ながら、郡内織物をリメイクした現代風の衣装の製作も行った。

参加者の声

- ・社会学科3年/女性…手織りが楽しい。時間を忘れてずっと続けていられる。
- ・国分学科2年/女性…織物に興味はあったが触れることのできる機会がなかったのでよかった。
- ・社会学科4年/男性…ネクタイの質が良い。卒業式につけてみたいと思った。
- ・社会学科4年/女性…郡内織物はダサイと思っていたけれど、展示を見ておしゃれなものもあるのだと驚いた。この展示を見てからお母さんへの誕生日プレゼントに富士山駅に織物を買に行った。
- ・都留文科大学職員/女性…初めは難しいと思っていたが慣れれば意外に簡単にできた。
- ・初等教育学科4年/女性…オシャレな空間になっていた。織物だけで見ると地味に見えるが、こうやって展示すればオシャレに見えるのかと驚いた。